

塩津地区
かわら版
第1号

塩津地区
まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

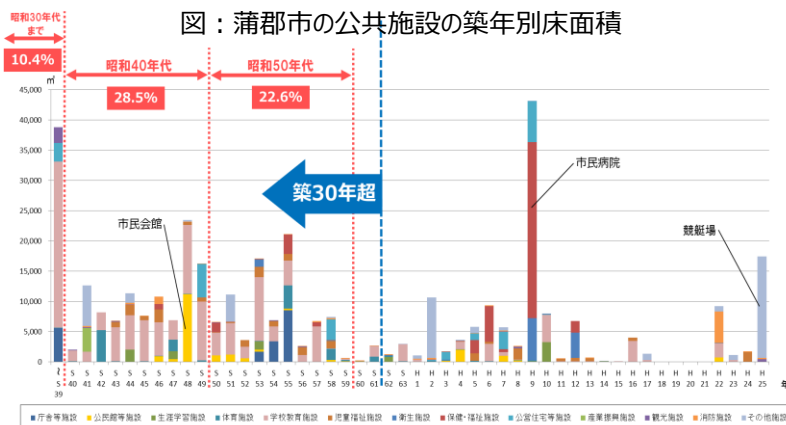
塩津地区のまちづくりと公共施設の将来について考えています。

蒲郡市では、今年度、塩津地区及び西浦地区にて、各地区にある公共施設（小学校・中学校・公民館・保育園・児童館）の将来について、地区の住民の皆様と協働で考えていく機会として「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催いたします。こちらの「かわら版」では、ワークショップで検討されている内容をお知らせするとともに、広く地区にお住まいの皆様のご意見を募集します。

蒲郡市の現状と課題

① 公共施設の老朽化

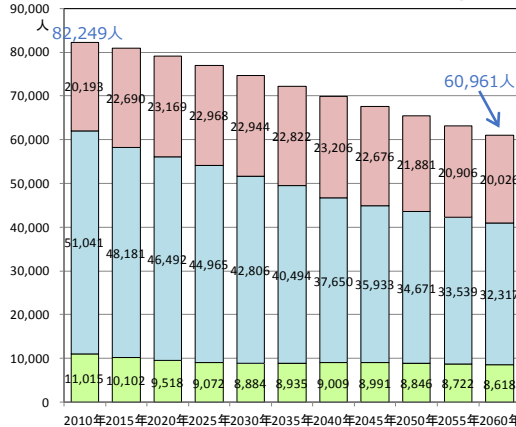
蒲郡市の公共施設の築年別整備面積を見ると、全体の65%がすでに建築後30年以上経過しています。これらの築30年を超える建物は今後、安全性や機能性を確保するために大規模修繕や建替えが必要となり、多くのコストが必要となることが想定されます。



② 人口減少と少子高齢化

蒲郡市の人口は、43年後の平成72年（2060年）には、現在から2万人以上減少し、約61,000人（市目標値）になると推計されています。少子高齢化が進むことから、公共施設の維持更新にかけられる費用が減少することが見込まれます。

図：蒲郡市人口推計（市目標値）



蒲郡市におけるこれまでの取り組み

公共施設マネジメントとは、市などが所管する公共施設を自治体経営の視点から、総合的、統括的に管理・運営・活用する仕組みです。

市では、平成26年度に「蒲郡市公共施設白書」を作成し、公共施設の現状と課題を認識しました。その後、アンケートや市民会議などを通じ、市民の皆様のご意見を反映させながら、公共施設マネジメントの原則を示す「蒲郡市公共施設マネジメント基本方針」、公共施設の整備を進めていくための方策を示す「蒲郡市公共施設マネジメント実施計画」を策定しました。

■ 蒲郡市公共施設マネジメント基本方針

- 適正化
- 効率化
- 魅力
- 安全性
- 実行力

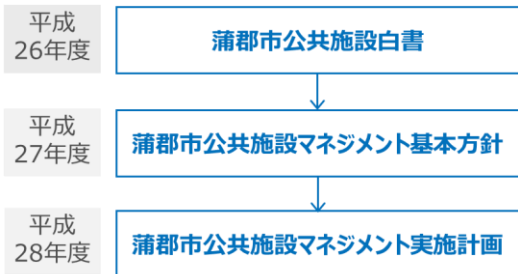
この5項目を公共施設マネジメントの取り組みを進めていく上での原則として示しました。

■ 蒲郡市公共施設マネジメント実施計画

目標、施設用途別の方向性、実行体制などを示し、公共施設マネジメントの取り組みを具体化させました。

計画期間、マネジメント目標については、以下のとおりです。

- ◆ 計画期間：30年間(平成29年度から平成58年度)
- ◆ マネジメント目標：
 - ① 建物更新の際に概ね3割の床面積を縮減する。
 - ② 保有床面積の縮減と建物の長寿命化による費用の平準化により、523億円の維持更新費を縮減する。



地区個別計画の策定

小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の配置や活用方法を示す「地区個別計画」を中学校区ごとに策定していきます。

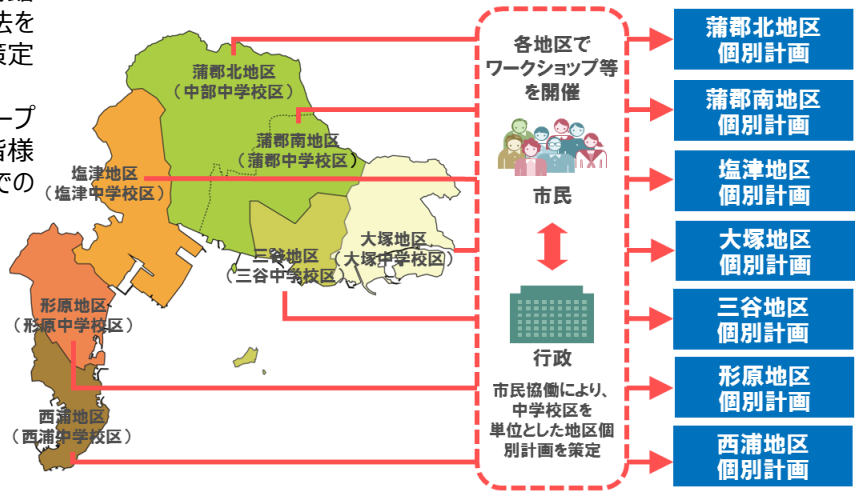
ワークショップ・かわら版での意見募集、オープンハウス等の実施により地区にお住まいの皆様のお考え・アイデアを取り入れ、皆様と協働での策定を進めます。

【用語解説】

ワークショップ：意見やアイデアを出し合い、話し合いをしながらその成果をまとめていく検討方法です。

かわら版：本紙のことです。ワークショップでの検討内容をお知らせするとともに広くご意見募集をします。

オープンハウス：住民の皆様が集まる施設などで行うパネル展示型説明会です。ここでもご意見をお聴きします。



ワークショップの位置づけ

蒲郡市が「地区個別計画」を策定するにあたり、市と地区の皆様と協働するための重要な機会としてまちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップを実施しています。

このワークショップは、「蒲郡市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。「地区の将来をどのように考えるか」「なぜそう考えるのか」といった地区の皆様に関心に着目していきます。

市は、皆様のご意見を反映させた塩津地区の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

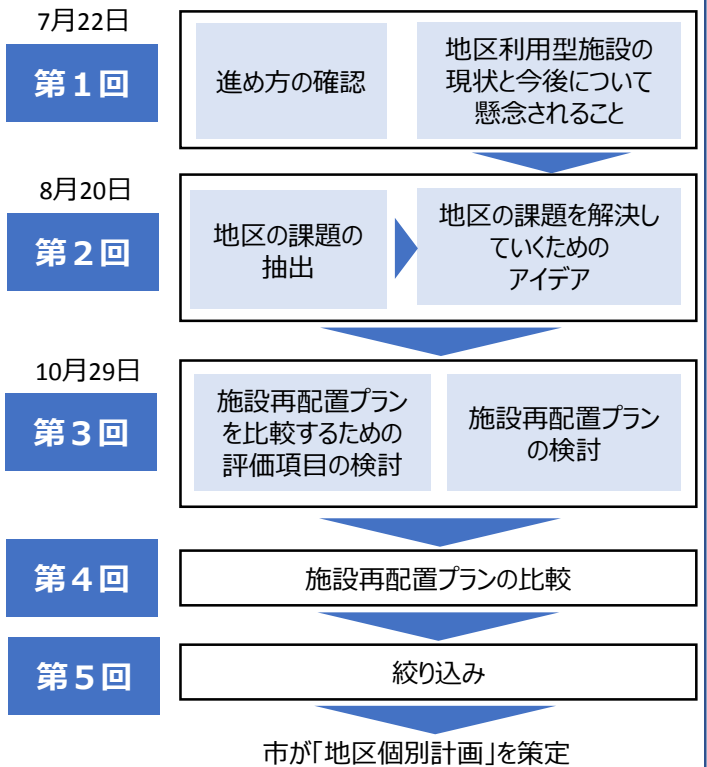
住民の皆様のご意見

- ・ワークショップ
- ・かわら版
- ・オープンハウス

地区個別計画

- ・施設・機能の配置
- ・活用方法
- ・再編スケジュール

ワークショップの流れ



塩津地区 第1回ワークショップを開催しました

7月22日（土）塩津公民館にて、「塩津地区 第1回まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しました。塩津地区の各地域にお住まいの24名の方が参加され、活発な意見交換が行われました。

今回のワークショップでは、まず、これから実施されるワークショップに関すること、これまでの蒲郡市の公共施設マネジメントの取り組みや課題について事務局から説明がありました。その後、4つのグループに分かれ、ワークショップの進め方の確認と、塩津地区の公共施設の現状と今後についての議論が行われました。最後には全体で議論した内容を共有し、第1回のワークショップを終えました。



第1回ワークショップの様子

第1回ワークショップでのご意見

公共施設マネジメントにおける考え方

■ 基本的な考え方

- 今後税収が減っていくことを考えると、市全体として公共施設の数を減らしたり集約することで、効率化する必要性があることは理解できる。
- できれば公共施設を減らして欲しくないのでも、減らすことを前提にせず、現状を維持する方向で考えることはできないか。
- 現状使われていない施設は公共施設の面積に含めずに1人あたりの床面積を出すなど、より実情を反映したデータを提示してほしい。
- 塩津地区にある多様な公共施設は地区に活気をもたらす良い面がある一方で、子どもたちにとって良い影響ばかりを与えている施設ばかりとは言えない。施設の特性によっては居住エリアとは分けて配置すべきものもあると思うので、今回の検討でエリア分けについても考えていきたい。
- 再配置や統廃合の際には、売却を含めた跡地利用方法についても検討し、戦略を持つ必要がある。

■ 施設の集約・複合化

- 学校に機能を複合して新たな交流拠点を作るとしたら、地区の将来がより充実する様に、様々な地区のデータや先進事例などを参考にしながら、複合する機能を慎重に考えていく必要がある。
- 最初に検討を始める塩津地区では、小、中学校を集約化することに決めたのに、後から議論する地区ではそうしないことに決めたとしたら、施設の数が増える地区と減らない地区が出てきて不公平になってしまう。市としての統一された方針はないのか。
- 集約化、複合化して新しい施設をつくるとしても、建設するための土地が無かったら土地買収のための費用が発生するので割高になってしまふし、今のままの土地に建てるとしたら、十分な床面積が確保できるだけの広さがあるのかわからないので、そういった情報も事前に提供してほしい。
- 学校が複合化することで世代間交流が生まれたり、送迎が楽になるなど子育ての環境が充実されるので、良いことだと思う。
- 学校を複合化する際には、子どもの安全性を確保する対策を取るとともに、放課後の遊びや活動に制約が出ないようにして、これまで同様に子どもの居場所を確保してほしい。
- 塩津保育園と塩津北保育園はどちらも園児数が減っているのになかなか統合されない。そのような状況を見ると、今後施設の再配置が順調に行われていくのか疑問を感じる。

■ 災害時対応

- 公共施設の再配置を検討する際には、災害時のことも踏まえて、避難所の数や配置、災害時の対応のあり方についても考えたい。新たな施設を設計するならば、避難所としても使えるように十分な収容スペースや津波対応できる階高を確保してほしい。
- 今後起こりうる地震などへの災害対策を万が一の規模に備えたレベルで考えるのか、それとも被害はさほど大きくないとして考えるのかによって、避難所整備の度合いも変わるだろう。市の考えを知りたい。

■ 施設へのアクセス

- 鉄道の高架化により踏切がなくなってしまう塩津地区は南北に分断されてしまっているが、現状でも公共施設のほとんどが北側に設置されているので、行くのに時間がかかる地区もある。公共施設が複合化し更に不便にならないように配慮し、各地区から施設までのアクセスの公平性を考えてほしい。

- 施設を集約化・複合化する場合、施設まで行きにくくなる地域が発生するので、道路の整備や巡回バスの運行などによって、施設へのアクセスを良くしてほしい。また、利用者が増えることを見据えて、十分な駐車場を確保する必要がある。

検討の進め方

■ 地区個別計画策定に向けた検討の進め方

- 地区個別計画の策定に向けた検討は、地域住民が公共施設について考え意見を伝える良い機会になると思うので、この取り組みを多くの人に周知し、検討の過程に関わってもらうようにしてほしい。
- 施設のことを良く理解し、管理している学校や保育園の教職員に対して、複合化や地域住民との交流についての意見を聞く必要があると思う。

■ ワークショップの進め方

- 地区ごとに公共施設の再配置を検討するのであれば、市全体ではなく地区の公共施設の現況と課題を把握する必要があると思うので、学校の空き教室数や公民館の目的に応じた部屋ごとの利用率など、塩津地区の地区利用型施設のデータを提示してもらいたい。他地区との比較もできると良い。
- 地区利用型施設の再配置を検討する場にも関わらず、市全体の1人あたりの公共施設面積、それも市民のためだけではないポートレース場の様な施設まで含めたデータを示されると、誘導するために市の都合の良いデータを出しているのではないかと勘ぐってしまう。
- 現状使われていない施設は公共施設の面積に含めずに1人あたりの床面積を出すなど、より実情を反映したデータを提示してほしい。
- 地区個別計画の策定を塩津地区から始める理由や他地区との比較を、データを示して説明してほしい。
- 市民アンケートを年代別に集計し、世代ごとの考え方の傾向をつかめると、各々の世代が何を重視しているのかが見えてくるので、各施設のメインターゲットの意向を汲んだ、活用方法を提案することができるのではないかと。
- ワークショップの開催日程は、なるべく多くの人に参加できるように地元の行事などの日程を確認した上で決定してほしい。
- ワークショップで出された意見は、一部だけではなく全て公表してほしい。

塩津地区の公共施設の現状と課題

■ 地区のまちづくりの方向性

- 塩津地区は現状では特徴がないが、将来どんな地区にしていきたいかというビジョンを考える必要がある。たとえば子育てしやすい地区という方向性は考えられるのだろうか。
- 同じ塩津地区の中でも、昔からの人が多い地区と外国人などの新しい住民が相当数いる地区とでは、地域住民のつながりの度合いが異なる。日本語がわからない場合も多い外国人との関係構築するためには、場を設けるだけでなく運営の工夫や人材が必要だ。
- お祭りは3つあるが地区ごとに行われているので活気に欠ける。今は塩津全体で行う取り組みが運動会しかないのでも、世代間交流ができる機会と場所を作りたい。

■ 公共施設全般

- 地区の公共施設が使いづらいとかスペースが足りないの
で困ったという話は耳にしたことがない。
- 公共施設全般的に耐震工事で補強されているのか。
児童館以外は老朽化しているのでは安全性が心配だ。
- 公共施設は限られた人しか使っておらず、日常的に広く
一般市民に利用されていないのではないかと。自分が使う
としたらどのように使うのかイメージすらできない。
- 公園の管理が行き届いていないため、ボランティアで対応
している状況だ。遊具やトイレの整備、草刈りなどの管理
体制を整え、だれが何をやるのかを明確にしてほしい。
- 公共施設に十分な駐車スペースがないため、路上駐車が
発生して近隣に迷惑をかけている。施設を建てる際
には駐車場の整備もあわせて検討してほしい。

■ 小学校・中学校

- 小中学校の空き教室があるならば高齢者用の施設として
有効活用してほしい。公民館のスペース不足やアクセ
スの不便さを補えると思う。
- 児童クラブが定員いっぱいに入れなかったり、1年生だけ
は保育園で過ごさなければならぬ状況を改善してほし
い。施設の複合化によって、全学年が同じ場所で過ごせ
る児童クラブが整備できると良い。
- きょうだいの少ない家庭が増えているなか、小学生と中学
生の交流も重要な多世代交流の1つなので、小中一貫
校の創設に取り組むことは大切ではないかと。市で小中一
貫校の視察を行っているのなら事例を示してもらい、その
効果について職員の生の意見も聞きながら検討したい。
- 小中学校は地区の行事に使うこともあるが、トイレの数が
足りなかったり、古くて使いにくいという問題がある。また
災害時に備えて貯水槽の水を仮設トイレに使える様に
する等の対処も必要になる。

■ 保育園

- 公立の保育園は、就労や保育できない理由があることが
入園の条件になっていたり、定員割れしていても規程が
あるので3歳未満児を預かってもらえなかったりして、使い
勝手が悪い。保育料の設定は不透明で民間の方が
安い場合もあるので、制約の多い老朽化した設備の公
立から、より活気がある私立の保育園に園児が流れてい
るのではないかと。
- 塩津保育園は老朽化が進み、地震の際に不安があるの
に加え、雰囲気も暗い。塩津北保育園は、生活道路に
面しているため安全面に不安がある。どちらの園も親に
とって魅力に欠けている。
- 市内の保育園が自由に選べるのは良いことだが、延長保
育のある園に園児が集まり、延長保育がない園は定員

- 割れになっているようだ。効率を重視すれば定員に満
たない園を統廃合することになるのだろうが、車が使え
ない家庭にとって近隣の保育園がなくなることは負担
になるので、弱い立場の人に配慮し、公共のための
施設という観点を忘れないでほしい。
- 山の上にある塩津保育園の立地は通園に不便である。
塩津保育園及び塩津北保育園は、共に地区の北側
にあるため南側の住民にとっては通園が大変だ。再配
置するには通園の利便性や、地区内で不平等が起
きにくいことに配慮してほしい。
- 送迎の手段に関わらず、自宅近くの園は親にとって利
便性が高いので自宅の近くで預けたい。地区内の保
育園に通えたと卒園後に同じ小学校に通えるので子供
にとっても良い。自宅から通いやすい園に入園できるよ
うに数を減らさず、市の保育園を維持してほしい。
- 塩津保育園には発達支援が必要な未就園児のため
の親子教室があるが、市内には設置されていない園も
ある。全市として対応していくための方策、施設の整備
を考えられると良い。
- 検討の対象は公立の保育園のみとのことだが、公立に
入園できない人は私立に入園させることになるので、塩
津地区の保育環境を考えるならば、私立の保育園も
含めて考える必要があるのではないかと。

■ 児童館

- 小つ児童館は運用がしっかりされており地域住民の
役に立っていると聞いている。学校が複合化されたとし
ても、これまでどおり、子ども達の遊び場、居場所は場
として確保されるべき。

■ 公民館

- 公民館に関する情報発信が足りないのでは、どんな行事
が行われているのか知らないし、場所もわからない人が
特に若い人に多い。積極的に情報を伝え、行事や活
動の内容自体も魅力あるものにすべきだ。
- 魅力を感じる身近な公共施設がないので、地区の若者
のまちへの関心がなくなってきているようだ。若者にと
って唯一の身近な公共施設である小、中学校に公民館を
複合させれば、公民館に対する意識を変え、利用を促
することができるかもしれない。
- 公民館は老朽化が進み、玄関のスロープやエレベーター
がないため高齢者や障がい者にとって使いにくいのでバ
リアフリーに配慮してほしい。エントランスは入りにくい雰
囲気もあるので、開かれた雰囲気にしてほしい。
- 地区の各総代区には各々の集会所があるので、日常
的にはそれを利用している。公民館の利用を促すには、
地区内の各所からのアクセスを向上させる必要がある。
また、集会所を充実させることも必要だ。

ご意見募集

ワークショップに参加されるだけでなく、多くの塩津地区の皆様
の意見を「地区個別計画」に反映させたいという考えのもと、ご意見を募集します。

- **ワークショップで検討されている内容について**
- **塩津地区のまちづくりや公共施設について**

下記のお問い合わせ先まで、メール・ファクス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。
差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

皆様のご意見
をお待ちしています。



お問い合わせ先

蒲郡市総務部財務課 公共施設マネジメント担当

〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号
E-mail zaimu@city.gamagori.lg.jp

TEL 0533-66-1158
FAX 0533-66-1183

ワークショップ概要

まちづくりと公共施設の将来を
考えるワークショップ

<http://www.city.gamagori.lg.jp/unit/zaimu/machizukuri-kokyoshisetsu.html>

